

コシガヤホシクサの 保護活動にご協力を

絶滅の危機にあるコシガヤホシクサについて、総合的な学習の時間から砂沼での野生復帰活動を知り、『コシガヤホシクサを守る活動』を始めた下妻中学校3年5組の皆さん。今回は、清掃やPR活動に取り組む同クラスの平石朋花さんからの便りを紹介します。

皆さんは、コシガヤホシクサという草を知っていますか。きっと知らない人が多いと思います。

私たち3年5組では、総合的な学習の時間に、地域社会のために自分たちにできることについて話し合い、「コシガヤホシクサを守る活動」をすることになりました。そこで私たちは、皆で自然を守り、コシガヤホシクサの保護PR活動を行うことを決定しました。

まず、活動を行うためには、私たち自身がコシガヤホシクサについて知らなければいけないと思いました。そこで1学期には、ホシクサについての理解を深めるため、クラス全員でコンピューターを使った調べ学習を行いました。この活動により、コシガヤホシクサは今、絶滅の危機にあることを知りました。この草は一度越谷で絶滅しており、その後、下妻市の砂沼で発見されました。しかし、砂沼に自生していたものも絶滅し、今では、栽培したものを野生復帰させる活動が行われています。

調べ学習を通して、私たちはもっとホシクサについて学ばなければならないと考えました。その時、STOP!温暖化エコネットしもつまで「エコネット塾」という活動を行うことを知りました。この活動は、コシガヤホシクサの野生復帰現場や栽培状況を観察するという内容で、私たちはクラスで参加しました。

「エコネット塾」では、越谷市役所で野生復帰に向けた取り組みなどの説明を受けました。その後、野生復帰現場に足を運び、ホシクサの様子を観察させていただきました。越谷市農業技術センターでは、栽培状況を観察し、ホシクサを成育するための環境作りを学びました。「エコネット塾」は、私たちにとってコシガヤホシクサについて学ぶとても良い機会となりました。

2学期に入り、「エコネット塾」で学んだことを振り返りました。そして、ホシクサを保護するためには、きれいな環境を作ることが大切だと感じ、清掃活動を行うことを決め、9月28日に砂沼の清掃を行いました。クラス全員で、砂沼の周りに落ちていたごみを拾い、きれいな環境作りに取り組みました。

これまでの活動から、コシガヤホシクサは多くの人に知られてはいないということを実感しました。そこで、3年5組では、コシガヤホシクサについてのポスターを作成し、市民に呼びかけなどの広報活動を行い、コシガヤホシクサを多くの方々に知ってもらうための保護PR活動を行っていく予定です。

皆さんも、コシガヤホシクサの保護活動のご協力をよろしくお願いします。



砂沼の清掃活動(9月28日)

コシガヤホシクサ(ホシクサ科)



コシガヤホシクサ(頭花)

花茎10~15cmで、7月から9月に先端に白い花の集まりの頭花(6~7mm)をつける。花の形が星のように見えることが花の名前の由来となっている。

撮影:国立科学博物館



きびきびとした動きを見せる下妻市消防団の操法



堂々と入場行進する下妻市消防団の選手たち

鍛えた消防の技競う

第67回茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会 10月16日

第67回茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会が、下妻市二本紀のフィットネスパーク・きぬ多目的第二グラウンド駐車場で開催されました。県西地区の10市町から全10チーム・選手60人が出場し、ホースを延ばして消火するまでの確実性や速さなどを競い、日頃の訓練の成果を披露しました。

下妻市消防団からは、第7分団の精鋭6人が出場。機敏な動きで見事な操法を披露し、5月からの厳しい訓練の成果を存分に発揮しました。

消防団員となって4年目を迎え、指揮者を務めた浅川政喜さんは「けがを乗り越え、一致団結して力を発揮できた」と充実感に満ちた笑顔でした。

広報しもつま2016年10月の記事に誤りがありました。お詫びして訂正します。

○10ページ:まちのわだい「空手の世界大会で活躍誓う」の記事

- 大会名称
【誤】空手1プレミアリーグ2016沖縄大会
【正】空手1プレミアリーグ2016沖縄大会
- 写真キャプション
【誤】活躍を誓う握手(右から須藤市議会議員、須藤選手、稲葉市長)
【正】活躍を誓う握手(右から須藤市議会議員、浅野選手、稲葉市長)



委嘱書を受ける塚田さん(右)と井上会長(左)



下妻市の体育発展と活性化に協力

女子柔道・塚田真希さん「下妻市体育協会名誉会員」就任 10月12日

オリンピックで2大会連続のメダル獲得(柔道女子78kg超級・2004年アテネで金、2008年北京で銀)を成し遂げた塚田真希さんが、「下妻市体育協会名誉会員」に就任しました。

塚田さんは、下妻市黒駒の出身。オリンピックのメダリストであるとともに数々の柔道大会において輝かしい成績を収めています。特に皇后盃全日本女子柔道選手権大会の9連覇は、大会史上最多優勝者として現在も記録は更新されていません。平成28年4月からは指導者として東海大学柔道部の女子副監督に就任。同年8月のリオオリンピックでは柔道女子のコーチとして選手団を支え、日本勢のメダル獲得に貢献しました。

同協会では、下妻市出身の塚田さんに下妻市の体育発展等に協力を得たいという思いから名誉会員就任を依頼。塚田さんから快諾を得て、5月21日の平成28年度総会で承認されていました。井上暢会長は10月12日、東海大学の研究室を訪れ、委嘱書を手渡しました。

委嘱書を受けた塚田さんは「現在もいろいろなことにチャレンジし続けている。下妻市は私自身の基盤を培った原点であり、初心を忘れないように心掛けている。下妻市の体育発展に協力できることは本望です」と話していました。

女子柔道の選手としての経験はもちろん、指導者としての知識も豊富な塚田さん。同協会の名誉会員としての今後の活躍が下妻市の体育発展等につながるものと大いに期待されます。

有料広告欄

有料広告欄